

---

# BUSINESS REPORT 2020

---

2020年3月期 中間報告書  
2019年4月1日～2019年9月30日

焼津水産化学工業グループの品質保証体制の見直しと  
コンプライアンス意識の改革を進め、  
早期の信頼回復に全力を挙げてまいります。

代表取締役社長 山田 潤

このたび当社製品において不適切な食品表示が行われていた事実が判明いたしました。株主の皆さま、お客様をはじめ関係各位に多大なご迷惑、ご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。

現在までに、社外の有識者による調査委員会を設置し、事実関係と原因を究明するとともに、お客様への説明を順次行い、早期に是正を完了すべく取り組んでおります。調査委員会の提言を踏まえ、品質保証体制の抜本的な見直しとコンプライアンス意識の徹底的な改革を進め、再発防止と早期の信頼回復に全力を挙げてまいります。

### 上半期の事業の概況

当社グループでは、2022年3月までの3か年中期経営計画「Create Next YSK」に基づき、“おいしさ”と“健康”で価値創造フィールドを拡大し、顧客に支持される食品メーカーへ成長することをビジョンとして、さまざまな取り組みを進めています。

具体的には、i. 差別化とフィールド拡大による成長、ii. 海外事業のステージアップ、iii. 新規事業育成、の3つの重点施策を推進しています。水産系の天然素材を原料とした調味料、機能性食品素材を強みとして、顧客視点による機会創造型営業マンの育成・強化と新製品の開発に取り組み、差別化を図っています。製造面については、設備投資を積極的に実行して、更なる効率化や安定製造に向けた取り組みを進めています。海外事業については、タイ国バンコクの駐在員事務所を活用し、ASEANを中心とした事業展開を進めています。新規事



業については、当社グループがこれまでに培ってきた技術を活用して、農業分野など新たな事業分野への展開を進めています。

連結売上高につきましては、水産物の販売は伸長したものの調味料及び機能食品の販売が減少したことから、76億31百万円（前年同期比85百万円、1.1%減）となりました。利益面につきましては、原材料価格の上昇や物流費、人件費等の増加があったものの売上減少に伴う変動費の減少並

びに先行投資の一部が第三四半期以降にずれ込んでいる影響もあり費用計上が減少し、連結営業利益は4億48百万円（同1億7百万円、31.4%増）となりました。また、連結経常利益は、4億77百万円（同1億22百万円、34.6%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、不適切な食品表示に係る品質関連損失1億28百万円を特別損失に計上したものの2億44百万円（同20百万円、9.4%増）となりました。

## 下半期の課題について

中期経営計画の達成に向けた各施策を実行するとともに、調査委員会の提言を踏まえた下記の再発防止策に全社一丸となって取り組み、信頼回復に向けて活動してまいります。

### (1) コンプライアンス意識の改革と企業統治体制の強化

経営陣をはじめとする全役職員に対して定期的なコンプライアンスおよび食品表示の研修を実施するとともに、企業行動規範を見直し周知する。特に経営陣の意識改革、研修を徹底する。また、リスクマネジメントの強化のため、企業統治体制を見直すとともに法務担当を設置する。

### (2) 品質保証体制の抜本的見直し

これまでの縦割りの品質保証体制を見直し、品質に関するガバナンスを強化するため、品質保証本部の組織を再編成し、他部署との連携や監査・監督機能の強化を行うとともに、品質規格書作成に関するルールや食品表示に対するチェックと責任体制を明確化する。また、外部有識者を含む品質改善会議を設け、全社的な品質保証に関する課題抽出および対策を決定し実行する体制とする。

### (3) 製造体制の強化

製造体制を見直し、チーム制で相互補完出来る体制へ変更するとともに、不良品発生時における責任体制を見直し、工場だけでなく全社で対応する体制へ転換する。各工場に品質保証部門の担当者を駐在させ、不良品発生に関する全社横断的な原因究明や対策及び事故の未然防止を進めるとともに、定期的な製造監査を行う。また、原料管理の厳格化、製造工程の標準化を行う。

### (4) 全社的なコミュニケーションの活性化

「風通しの良い、何でも言える会社」を目指し、まず経営陣が定期的に現場に赴き、従業員と直接対話する機会を設け、課題に正面から向き合い解決していく。また、従業員からの意見、提案を促進するため、改善提案制度を設け、自発的な提案を奨励するとともに、従業員アンケート等を実施し、一人ひとりの意見、提案に対して経営陣がしっかりとフィードバックを行っていくことにより、全社的なコミュニケーションの活性化を進めていく。

（ご注意）本報告書は、2019年11月15日時点の事実関係に基づき記載しております。その後の状況の変化等については、反映されておりませんので、ご了承ください。

## 配当について

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。利益配分につきましては、時代のニーズに対応するための研究開発、生産、市場開拓等への投資を進める一方で、配当性向を勘案しつつ継続的に安定した配当を実施することを基本方針としております。当期の中間配当については、前期の中間配当と同じく1株当たり10円とさせていただきます。期末配当については、1株当たり14円（中間と合わせて24円）を予定しております。

### 配当金推移

(単位：円)



### 新中期経営計画

#### Create Next YSK

当社グループは「3ヶ年中期経営計画」を策定しました。新中期経営計画の名称は『Create Next YSK』です。変革と創造で次のステージへと進むために

「おいしい」と「健康」で価値創造フィールドを拡大し、顧客に支持される食品メーカーへ」

を経営ビジョンに掲げ、グループ一丸となって活動していきます。

#### 『Create Next YSK』の基本戦略

- (1) 差別化とフィールド拡大による成長
- (2) 海外事業のステージアップ
- (3) 新規事業育成

(単位：百万円)

	2019年3月期 (実績)	2022年3月期 (目標)	増 減
連結売上高	16,458	17,000	+542
連結営業利益	875	1,100	+224

### 重点施策

- (1) 差別化とフィールド拡大による成長  
(国内調味料、国内機能食品事業)
  - ・新規顧客開拓と顧客視点の販売・開発体制構築
  - ・強み拡大の成長戦略を川上・川下を問わず推進
  - ・試験研究費、生産設備への積極的投資
- (2) 海外事業のステージアップ (海外展開)
  - ・当社グループにおけるリソースのすべてを活用し、経営資源の積極投入により、海外事業を推進
- (3) 新規事業育成 (新たな事業分野創出)
  - ・一定の人的リソース、当社グループ技術等の経営資源を投入しながら新規分野に積極的に挑戦

### 基本戦略の実現に向けた経営基盤の強化策

- ・人材育成を中心とした「持続可能性の追求」
- ・B/Sのスリム化やM&Aの推進を軸とした「資本効率の追求」
- ・生産性向上を実現するための「社内コミュニケーション、コラボレーションの強化」
- ・既存技術の他分野への展開や新規技術の積極投入、オープンイノベーションを図り、技術・研究を深耕していくと共に、製造技術の向上及び差別化された新製品投入を進める。

なお、今回の不適切な食品表示に関する再発防止策に優先的に取り組むため、中期経営計画の施策を見直す場合があります。

天然調味料の製造 香辛料の製造

調味料の受託加工

売上高構成比

48.6%

## 調味料

売上高

37億 11百万円

前年同期比

1.1%減

セグメント利益

4億 20百万円

前年同期比

7.5%増

液体調味料は伸長したものの、粉体調味料及び香辛料が減少し、減収となりました。原材料価格や物流費が増加したものの、売上構成比の変化により、増益となりました。

## 天然調味料

カツオエキス 昆布エキス ホタテエキス  
カニエキス オイスターエキス etc.

機能性食品素材の製造 健康食品の通信販売

機能食品の受託加工

売上高構成比

19.5%

## 機能食品

売上高

14億 1百万円

前年同期比

6.7%減

セグメント利益

3億 48百万円

前年同期比

21.2%増

機能性食品素材の売上が減少したほか、機能食品も苦戦が続き、減収となりました。売上構成の変化及び広告宣伝費等の効率化に取り組んだことにより、増益となりました。

## 機能性素材

N-アセチルグルコサミン アンセリン マリンコラーゲン  
フコイダン コンドロイチン硫酸 テアフラビン etc.

水産物の問屋業

倉庫業

水産物の加工

売上高構成比

24.4%

## 水産物

売上高

19億 43百万円

前年同期比

3.3%増

セグメント利益

33百万円

前年同期比

534.0%増

加工技術、品質に対する取引先からの評価を背景にOEM加工販売が伸長しました。加工賃単価の見直しや販管費の削減等も行い、増収増益となりました。

その他商品

化粧品通販事業

売上高構成比

7.5%

## その他

売上高

5億 75百万円

前年同期比

1.0%減

セグメント利益

17百万円

前年同期比

18.9%減

化粧品通信販売及びその他商品の販売が共に伸び悩み、減収減益となりました。

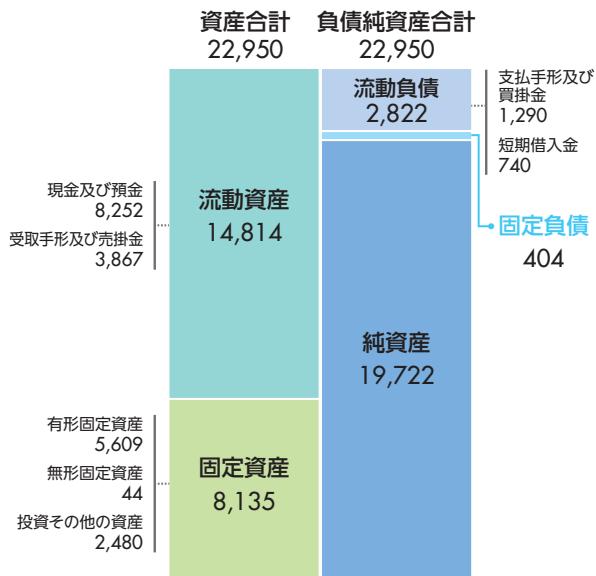
※上記における各分野のセグメント利益は配賦不能費用（364百万円）控除前のものです。

# 連結財務諸表

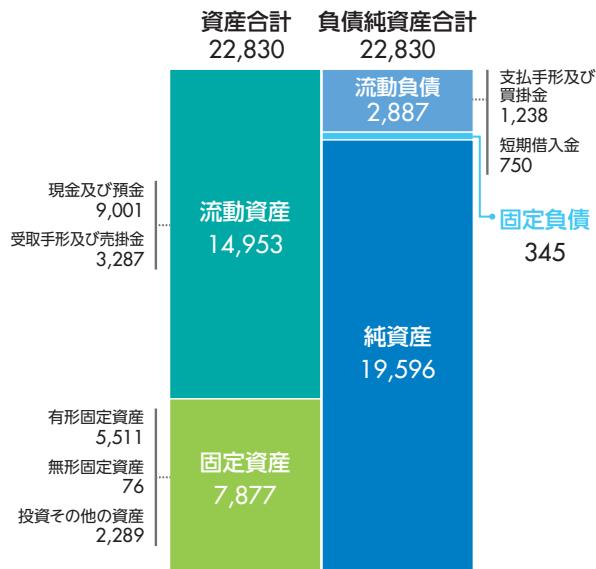
## 連結貸借対照表の概要

(単位：百万円未満切り捨て)

前期 (2019年3月末)

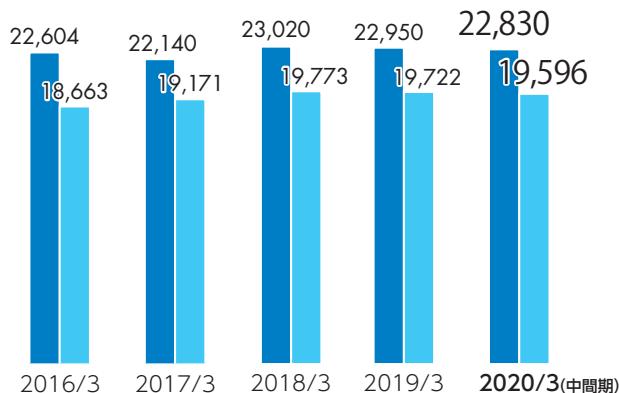


当中間期 (2019年9月末)



● 総資産 ● 純資産

(単位：百万円)



- 当中間末における総資産額は、前期末に比べ1億19百万円減少し、228億30百万円となりました。
- 流動資産：149億53百万円（現金及び預金で7億48百万円の増加、受取手形及び売掛金で5億79百万円の減少等により、1億38百万円増加しました。）
- 固定資産：78億77百万円（有形固定資産で98百万円の減少、投資その他で1億91百万円の減少等により、2億58百万円減少しました。）
- 流動負債：28億87百万円（短期借入金で10百万円、賞与引当金で50百万円、未払金等で75百万円の増加、支払手形及び買掛金で52百万円の減少等により、64百万円増加しました。）
- 固定負債：3億45百万円（繰延税金負債の56百万円減少等により、58百万円減少しました。）
- 純資産：195億96百万円（その他有価証券評価差額金で1億36百万円減少等により、1億25百万円減少しました。）

## 連結損益計算書の概要

(単位：百万円未満切り捨て)

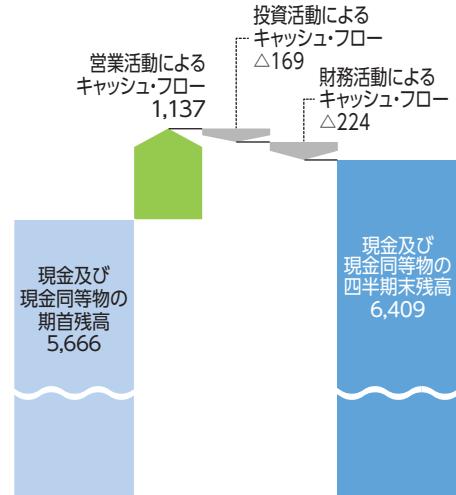
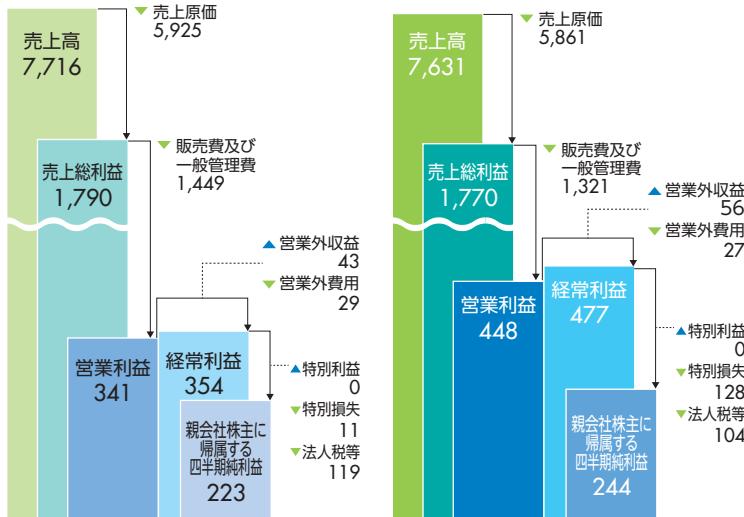
前中間期 (2018年4月1日～2018年9月30日)

当中間期 (2019年4月1日～2019年9月30日)

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円未満切り捨て)

当中間期 (2019年4月1日～2019年9月30日)



- 当中間期における連結売上高は、調味料及び機能食品の販売が減少したことから、76億31百万円（前年同期比85百万円、1.1%減）となりました。
- 利益面は、原材料価格の上昇や物流費、人件費等の増加があったものの、売上減少に伴う変動費の減少並びに先行投資の一部が第3四半期以降にずれ込んでいる影響もあり、費用計上が減少し、連結営業利益は4億48百万円（同1億7百万円、31.4%増）となりました。また、連結経常利益は、4億77百万円（同1億22百万円、34.6%増）となりました。不適切な食品表示に係る品質関連損失1億28百万円を特別損失に計上したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億44百万円（同20百万円、9.4%増）となりました。

- 当中間期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、64億9百万円となり、前連結会計年度比7億42百万円の増加となりました。
- 営業活動 増加した資金は11億37百万円（前年同期比10億54百万円増）となりました。増加要因は、売上債権の減少額5億79百万円、税金等調整前四半期純利益3億49百万円、減価償却費2億6百万円等です。
- 投資活動 減少した資金は1億69百万円（同39百万円減）、減少要因は、有形固定資産の取得による支出1億21百万円等です。
- 財務活動 減少した資金は2億24百万円（同1億67百万円減）、減少要因は、配当金の支払2億32百万円等です。



## ■ 会社概要 (2019年9月30日現在)

**商号** 焼津水産化学工業株式会社  
**事業内容** 天然調味料および機能食品の製造販売  
**資本金** 36億1,764万円  
**創業年月日** 1959年5月15日  
**取引銀行** 静岡銀行/三井住友信託銀行  
**事業所**  
 静岡本部 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町11番1号  
 静銀・中京銀静岡駅南ビル6F  
 TEL.054-202-6030 FAX.054-202-6031  
 焼津本社  
**営業所** 東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、九州営業所  
**工場** 静岡県内3工場(焼津・団地工場 大東工場 掛川工場)  
**連結子会社**  
 ●マルミフーズ株式会社  
 資本金 100百万円 当社の議決権比率 100%  
 主な事業内容 水産物の加工・販売  
 ●UMIウェルネス株式会社  
 資本金 50百万円 当社の議決権比率 100%  
 主な事業内容 健康食品・化粧品通信販売

## ■ 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会** 毎年6月下旬  
**株主確定基準日** (1) 定時株主総会議決権行使株主 3月31日  
 (2) 期末配当金受領株主 3月31日  
 (3) 中間配当金受領株主 9月30日  
 (4) その他必要あるとき あらかじめ公告して定めた日  
**単元株式数** 100株  
**上場金融商品取引所** 東京証券取引所 市場第1部  
**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
**同事務取扱所** (〒168-0063)  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話番号 (0120) 782-031 [フリーダイヤル]  
**同取次所** 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店  
**公告の方法** 電子公告 <https://www.y SKF.jp/ir/koukoku.html>  
 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。  
**株式に関する各種手続きのお申し出先**  
 (1) 証券会社経由で株式会社証券保管振替機構(ほふり)に株式がある場合  
 ▶株主様が口座を開設している証券会社  
 (2) 特別口座に株式がある場合  
 ▶三井住友信託銀行株式会社  
 お問い合わせは下記の証券代行部フリーダイヤル  
 またはホームページをご利用ください。  
 フリーダイヤル (0120) 782-031 (9:00-17:00)  
 ホームページ <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

※ 配当金領収証で配当金をお受け取りの株主様は、別紙「配当金口座振込サービスののご案内」をご覧ください。

## ■ ウェブサイトのご案内

<https://www.y SKF.jp/>



当社のことをより深く理解していただくとともに、最新情報をタイムリーに提供することを目的に、IR情報や製品検索、研究開発情報、事業内容などをウェブサイトに掲載しています。ぜひご利用ください。

◀ トップページ

UMIウェルネス  
オンラインショップ

<https://www.umiwellness.com/>



オンラインショップで当社素材を配合した商品がお買い求めいただけます。

## ■ IRカレンダー

第1四半期			第2四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月
	5月下旬 ■ 株主優待発送	6月中旬 ■ 定時株主総会招集ご通知発送	6月下旬 ■ 定時株主総会	8月上旬 ■ 第1四半期決算発表	9月末日 ■ 中間配当金 受領株主確定日
第3四半期			第4四半期		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
	11月上旬 ■ 第2四半期決算発表		2月上旬 ■ 第3四半期決算発表		3月末日 ■ 決算日、期末配当受領株主確定日

UD  
FONT

